

第九課

ナナ：中秋節といえば、日本では「かぐや姫」の伝説が有名よ。

阿南：それ、どういう話？

ナナ：竹の中からきれいな女の子が生まれて、かぐや姫、と名付けられ、おじいさんとおばあさんに育てられるの。大きくなると、多くの貴公子がかぐや姫に求婚するんだけど、全て断ってかぐや姫は生まれ故郷の月に戻っていく、という話よ。

阿南：嫦娥の伝説もそうだけど、月には女の人住んでいる、というイメージが台湾も日本もあるんだね。

ナナ：そうね。そういえば日本では、月には兎も住んでいる、と言われているのよ。月の影が、兎が餅つきをしているようにも見えるから。

阿南：いいね。僕も月に住みたいよ。美女に兎だなんて、楽しそうだな。

明治五年十二月二日(1872年12月31日)之後,日本的曆法已經採用西曆即陽曆的算法,過年也是過新曆的元旦年,跟台灣仍過舊曆春節的習俗大不相同,只有農家或神社少數仍有用舊曆的習慣,一般都以西元為主.要小心的是,明治以前的文學作品或歷史提到的是舊曆的日期,之後都是新曆,所以像端午,七夕,中秋,等與中國有關的節日,在現代日本人的觀念中,都是以西曆為主.

中國有句詩說[月到中秋分外明],似乎是秋天氣候較春夏乾燥,所以八月十五的月亮看來格外明亮,受到中國的影響,日本平安朝也有賞中秋明月的習俗,慢慢擴大到武士及百姓的階層,不過剛開始,日本除了有[十五夜]賞月風俗 同時還有賞[十三夜],兩天都一同欣賞皎潔的圓月,如果只賞一天,叫做[片見月],是有點被忌諱的,賞月時食用當季的食品,或是粥,或是團子,用秋日七草裝飾門庭,頗為風雅.可說是日本獨特的賞月風情,但現在恐怕已不復流傳了.

